

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学 術)	氏名 Author	王 勁草 (WANG JINCAO)
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 Title of Dissertation リクルート事件に見るマスコミのアジェンダ・セッティングパワー ー朝日新聞と読売新聞の分析を中心にー			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	広島大学大学院国際協力研究科	教授	小池 聖一 印 Seal
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教授	川野 徳幸
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教授	吉田 修
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	准教授	友次 晋介
審査委員 Committee	広島市立大学広島平和研究所	教授	永井 均
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>本博士論文は、戦後日本最大の贈収賄事件とされるリクルート事件を題材に、日本の二大マスコミ、朝日新聞と読売新聞の報道を両者のアジェンダ・セッティング(課題設定)能力に着目して分析したメディア研究である。</p> <p>リクルート事件そのものについても定説が存在せず、当該期のマスコミに対する評価も分かれるなか、本研究では、マスコミが有する議題設定機能、誘発機能、フレーミング機能をアジェンダ・セッティング研究に統一して、定性的・定量的に分析している。</p> <p>本論文では、リクルート事件前における新聞報道を分析し、同事件に対する報道姿勢に見られる先入観を明らかにしつつ、「檜崎事件」と「藤波孝生起訴」の二事例に着目しつつ、読売新聞の報道を朝日新聞と比較する形で、アジェンダ・セッティングパワーとしての両新聞を分析し、新聞報道がリクルート事件の進展に与えた影響を明らかにした。</p> <p>本論文は、先行研究が主観的な論調比較であったのに対して、David.H.Weaver および Doris A.Grabber 等の理論を応用しつつ、丁寧に政治過程を明らかにしている。さらに、「檜崎事件」と「藤波孝生起訴」における読売新聞によるアジェンダ・セッティングが生んだ世論の変化についての分析は、本論文最大の収穫であり、日本のメディア研究に一石を投じるものである。同時に、日本政治研究におけるマスコミ・新聞メディアの意義についても、明確な位置づけを与える研究となった。</p> <p>定性的・定量的分析による実証性も高く、審査員全員一致して本論文について合格とした。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は、博士(学術)の学位を授与されるに十分な水準があるものと認められる。</p>			